

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0272400631		
法人名	有限会社福祉の里		
事業所名	グループホーム福祉の里		
所在地 (電話番号)	〒037-0205 青森県五所川原市金木町中柏木字鎧石342番地2 (電話) 0173-52-2123		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年8月26日	評価確定日	平成21年10月13日

【情報提供票より】(平成 21年 7月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 7月 11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算	6.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 150 円
または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要(7月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1		要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	80.4 歳	最低	66 歳
		最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	健生五所川原診療所、公立金木病院、津島歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>温泉宿を改修されている為、各部屋の大きさは10畳以上で、床の間などがあり和風建築となっている。部屋の窓からは津軽平野、岩木山が望め、春には桜など鑑賞でき、季節感があり心む風景となっている。庭も広く野菜、草花がきれいに手入れされ、散歩なども行っている。職員は基本理念のもと、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活出来る様心掛け、重度化が進む中でも他の利用者とは過せるよう支援し、日中はホールで過している事も多くなっている。</p>

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善項目であった各マニュアル等の整備については、職員で話し合い作成され、いつでも確認出来る様保管されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、サービス計画担当者が中心となり職員と話しあい自己評価を検討、実践されている。詳細な計画を立てながら実践し、前向きな姿勢が感じられる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月1回定期的に開催されており、地区民生員、家族、行政担当者、在宅介護支援センター、地区社協等で構成され、外部評価の報告、議題などは毎回設定されホームのサービスの質の向上に努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>入居時に十分に説明され契約を交わしている。家族面会時に現在の健康状態や近況報告などし、家族の意見を引き出すよう心掛けている。家族が県外にいる人に関しては郵便、電話などで連絡され意見、要望など吸い上げるよう心掛けている</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>立地条件上地域との連携が難しい状態にあるが、夏祭りなど婦人部参加の盆踊りなども開催している。床屋さんが来てくれたり、必要に応じ出向く事もある。担当職員は今後キャラバンメイトになるよう地域との連携を図る意識がある。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は地域密着の意義を理解され、職員みんなで話し合い、ホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家庭的な雰囲気を大切にするという理念のもと、管理者、職員は日々確認しながら業務に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	自治会には加入していない。ホームの周辺には民家が少なく日々の交流が難しいが、家族や来訪者があり、地域の学生の介護体験も受け入れている。推進会議等で行事への参加も呼びかけている。		来訪者が訪れる機会があるので、まずはそこから少しずつ認知症についての理解が広まっていくことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解しており、職員みんなで話し合い作成されている。また、改善点がある場合も職員と話し合い改善に取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2、3ヵ月に1回実施されている。会議の中で外部評価についての話もだされ会議後は報告書にまとめ、参加出来ない方への報告がなされている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の地域ケア会議に参加され、市の職員ともいつでも連絡がとられており意見や情報が得られている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在手続きされてる方がおり、権利擁護について勉強会を開催され、管理者、職員みんなで把握するよう努めている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待について理解されており、会議の場で知識をさらに深め日々の業務に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に家族、本人に十分に説明されている。また、疑問等があった際はいつでも尋ねてもらえるよう努めている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に入居者の状況報告がされている。また、来れない家族へは電話での報告がされている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>前回の評価で苦情処理体制のマニュアルの整備についてあったが、マニュアルも作成されており、家族の面会時に声がけを行い要望を出しやすいよう努めている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はなく、退職もほとんどない。退職等がある場合は職員の方から家族、入居者に対し不安にならないよう説明している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には全職員が参加出来る様にされている。また、研修に参加した職員は報告書にまとめ、会議の場で報告されている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域ケア会議の場で他のグループホームの職員と情報交換をされている。また電話での情報交換もされており、よりよいサービスに向けて取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族、入居者が安心してサービスを受けられるよう、職員は家族と相談しながら工夫に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、入居者と一緒に食事の準備をしたり、一緒にソファーに座り話しをして楽しむなど日々支え合いながら関係を築いている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の生活の中で入居者の意見や希望を聞き入れ、意向の把握に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を利用し作成されている。計画書は入居者、家族の希望や要望を聞いて作成し、家族からは同意をもらっている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しの他、入居者の状態変化時には随時見直しを行い、家族にも報告し同意をもらっている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者、家族の要望に応じて対応がなされている。病院受診、買い物等はホームで対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力病院もあるが、入居者が以前から利用されていたかかりつけ医を継続し利用されている。入居者、家族の希望に沿った支援がなされている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応について家族やかかりつけ医、協力病院、職員での話し合いがされている。また看護師も常勤であり、緊急時等のマニュアルも作成されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の評価で個人情報についてのマニュアル作成についてあったが、マニュアルを作成し勉強会もされ、職員みんなが個人情報について学んでいる。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に合わせ、早めに朝食を摂る方や買い物や散歩も自由にされている。入居者が自宅で生活しているような気持ちになれるように、希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者は職員と一緒に食事の準備や後片付け、買い物などをし食事と一緒に食べられている。入居者の方に味見をしていただいたり、料理を聞いたりされ、食事を楽しむ支援がされている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は週2回と決まっているが、入居者の希望に合わせていつでも入浴出来る体制になっている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>レクリエーションのカラオケは入居者が楽しみにされて毎日のように行われている。また、歩行訓練など入居者のニーズに合わせた支援がされている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者の希望に沿って散歩や買い物が行われている。また、病院受診後にショッピングをしたりと外出の支援がされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についてのマニュアルが作成されており、研修会にも参加している。また、会議の場で職員全員で学んでいる。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>夜間は鍵をかけているが、日中は鍵をしておらず自由に外に出られるようにされている。入居者が外に出る時は職員も付いて見守りをされている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、消防署立ち会いのもと防災訓練をしている。非常灯も大きく見やすく、消火器や非常食も準備されている。</p>		<p>火災訓練の他にも、地震、水害時など想定し訓練される事で、緊急時の対応がスムーズに出来る様期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立については栄養士の方に相談し作られている。また、病院から食事制限がある方や、刻み食やトロミが必要な方にもそれに応じた食事を提供している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症のマニュアルを作成されており、会議の場でも職員で学び共有されている。消毒液や手洗い、うがいをするようにし、感染の予防に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>みんなが集まるホールにはソファがあり、テレビやカラオケも設置されている。廊下も広く日中でも電気がついて明るい雰囲気である。またホールの窓からの景色も良く、落ち着いて生活できる場所になっている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの部屋が広々しており、自宅で使っていたタンスやベッドなど馴染みの物が置いてあり、入居者が落ち着いて生活できる場所となっている。</p>		

 は、重点項目。